

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和5年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -					
重点項目	学習活動				
重点課題	基礎学力の定着とタブレットの有効活用に向けた教員研修会の実施				
現 状	<p>・ICTの活用が進んだり、互見授業で情報を共有したりして、分かりやすい授業に向けて多くの取組が行われている。各教科・科目の担当者は生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善を進めて分かりやすい授業の展開が求められる。また、生徒に自ら学習計画を立てて粘り強く実行し、自身の学習を評価(チェック・分析)し、次の学習に生かすことができる(改善)調整力を身に付けさせることも求められる。</p> <p>・生徒が1人1台タブレットを貸与され、それを授業等で活用するためには、教員間でアイデアを出し合ったり、専門家から学んだりする機会が必要である。</p> <p>・基礎力診断テストにおいて、義務教育範囲の学力が未定着であるとされる生徒(Dゾーン)が全体で約47.7%を占め、その中でも最低レベルのD3ゾーンに2学年で8.6%(昨年度5.6%)、3学年で11.4%(昨年度8.7%)を占めている状況であり、著しい学力の低下が見受けられる。その原因として家庭学習時間が0分の生徒の割合が34.8%(昨年度27.0%)と多いことが関係していると考えられる。</p>				
達成目標	<table border="1"><tr><td>基礎力診断テストの実施と分析</td><td>教員研修の実施</td></tr><tr><td>・全生徒を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする。</td><td>・タブレットの有効な利活用や評価について学ぶ教員研修会を3回以上開催する。</td></tr></table>	基礎力診断テストの実施と分析	教員研修の実施	・全生徒を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする。	・タブレットの有効な利活用や評価について学ぶ教員研修会を3回以上開催する。
基礎力診断テストの実施と分析	教員研修の実施				
・全生徒を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする。	・タブレットの有効な利活用や評価について学ぶ教員研修会を3回以上開催する。				
方 策	<table border="1"><tr><td>・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付ける。 ・朝学習を校時に入れ、年間を通して学習時間を確保し、家庭学習を行う習慣付けのきっかけとする。 ・D3だった生徒に対して個別指導を行う。</td><td>・外部講師によるマイクロソフトのformやjamboard等の使い方を学ぶ研修会を開催する。 ・グーグルクラスルームを活用した授業の取組等を紹介するなど、情報共有する研修会を開催する。 ・ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。</td></tr></table>	・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付ける。 ・朝学習を校時に入れ、年間を通して学習時間を確保し、家庭学習を行う習慣付けのきっかけとする。 ・D3だった生徒に対して個別指導を行う。	・外部講師によるマイクロソフトのformやjamboard等の使い方を学ぶ研修会を開催する。 ・グーグルクラスルームを活用した授業の取組等を紹介するなど、情報共有する研修会を開催する。 ・ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。		
・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付ける。 ・朝学習を校時に入れ、年間を通して学習時間を確保し、家庭学習を行う習慣付けのきっかけとする。 ・D3だった生徒に対して個別指導を行う。	・外部講師によるマイクロソフトのformやjamboard等の使い方を学ぶ研修会を開催する。 ・グーグルクラスルームを活用した授業の取組等を紹介するなど、情報共有する研修会を開催する。 ・ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。				
達 成 度	<table border="1"><tr><td>・第2回基礎力診断テスト結果(Dゾーンの生徒) ・1年生 78人/264人(29.5%) ・2年生102人/264人(38.6%) ・1・2年生全体180/528人(34.1%)</td><td>・外部講師による研修会2回実施 ・学校訪問でのICT活用についての情報交換(領域別協議会にて)を1回実施 ・学校訪問においては指定授業・公開授業の実施と授業の振り返りの協議会を行った。</td></tr></table>	・第2回基礎力診断テスト結果(Dゾーンの生徒) ・1年生 78人/264人(29.5%) ・2年生102人/264人(38.6%) ・1・2年生全体180/528人(34.1%)	・外部講師による研修会2回実施 ・学校訪問でのICT活用についての情報交換(領域別協議会にて)を1回実施 ・学校訪問においては指定授業・公開授業の実施と授業の振り返りの協議会を行った。		
・第2回基礎力診断テスト結果(Dゾーンの生徒) ・1年生 78人/264人(29.5%) ・2年生102人/264人(38.6%) ・1・2年生全体180/528人(34.1%)	・外部講師による研修会2回実施 ・学校訪問でのICT活用についての情報交換(領域別協議会にて)を1回実施 ・学校訪問においては指定授業・公開授業の実施と授業の振り返りの協議会を行った。				
具体的な取組状況	<table border="1"><tr><td>・全1年生に基礎力診断テストのオリエンテーションを実施し、就職や進学において基礎学力や基本的な生活習慣が大切であることを周知した。また、テストに向けて具体的な準備の仕方を確認させた。 ・集会時に再度事前準備をしっかりと行って自身の能力を高める努力をするように促した。 ・数学でD3だった生徒に対して2日間、マンツーマンの指導を行った。 ・朝学習を校時に入れた。</td><td>・夏休み中に外部講師によるgoogleのformの講習会を2回開催した。formを基礎基本から学ぶことができる内容であった。 ・学校訪問での協議会を利用して、グーグルクラスルームの活用方法についての情報交換を行った。 ・ICT活用に限定した授業公開は実施しなかった。(一般的な公開授業は実施した。)</td></tr></table>	・全1年生に基礎力診断テストのオリエンテーションを実施し、就職や進学において基礎学力や基本的な生活習慣が大切であることを周知した。また、テストに向けて具体的な準備の仕方を確認させた。 ・集会時に再度事前準備をしっかりと行って自身の能力を高める努力をするように促した。 ・数学でD3だった生徒に対して2日間、マンツーマンの指導を行った。 ・朝学習を校時に入れた。	・夏休み中に外部講師によるgoogleのformの講習会を2回開催した。formを基礎基本から学ぶことができる内容であった。 ・学校訪問での協議会を利用して、グーグルクラスルームの活用方法についての情報交換を行った。 ・ICT活用に限定した授業公開は実施しなかった。(一般的な公開授業は実施した。)		
・全1年生に基礎力診断テストのオリエンテーションを実施し、就職や進学において基礎学力や基本的な生活習慣が大切であることを周知した。また、テストに向けて具体的な準備の仕方を確認させた。 ・集会時に再度事前準備をしっかりと行って自身の能力を高める努力をするように促した。 ・数学でD3だった生徒に対して2日間、マンツーマンの指導を行った。 ・朝学習を校時に入れた。	・夏休み中に外部講師によるgoogleのformの講習会を2回開催した。formを基礎基本から学ぶことができる内容であった。 ・学校訪問での協議会を利用して、グーグルクラスルームの活用方法についての情報交換を行った。 ・ICT活用に限定した授業公開は実施しなかった。(一般的な公開授業は実施した。)				
評 価	<table border="1"><tr><td>C ・Dゾーンの生徒の割合が前回の47.7%から34.1%に減少した。受験した生徒が2・3年生から1・2年生へと変わってはいるが、大幅な減少と思われる。しかしながら、目標の30%以下とはならなかった。 ・Dゾーンの生徒の割合は減少したが、家庭学習時間が0分の生徒の割合が前回の34.8%から37.9%に増加した。</td><td>B ・研修会には基礎基本から学びたいという参加者が集まった。ゆっくりと丁寧に教えてもらうことができ、今後はICTの活用にチャレンジしてみたいという声が多く聞かれた。 ・教員がお互いのICTの活用方法について情報共有することで、問題点の解決や授業改善へのヒントなどを得ることができる有意義な協議会となった。また、指導主事から有効な助言や最新の情報を得ることができた。</td></tr></table>	C ・Dゾーンの生徒の割合が前回の47.7%から34.1%に減少した。受験した生徒が2・3年生から1・2年生へと変わってはいるが、大幅な減少と思われる。しかしながら、目標の30%以下とはならなかった。 ・Dゾーンの生徒の割合は減少したが、家庭学習時間が0分の生徒の割合が前回の34.8%から37.9%に増加した。	B ・研修会には基礎基本から学びたいという参加者が集まった。ゆっくりと丁寧に教えてもらうことができ、今後はICTの活用にチャレンジしてみたいという声が多く聞かれた。 ・教員がお互いのICTの活用方法について情報共有することで、問題点の解決や授業改善へのヒントなどを得ることができる有意義な協議会となった。また、指導主事から有効な助言や最新の情報を得ることができた。		
C ・Dゾーンの生徒の割合が前回の47.7%から34.1%に減少した。受験した生徒が2・3年生から1・2年生へと変わってはいるが、大幅な減少と思われる。しかしながら、目標の30%以下とはならなかった。 ・Dゾーンの生徒の割合は減少したが、家庭学習時間が0分の生徒の割合が前回の34.8%から37.9%に増加した。	B ・研修会には基礎基本から学びたいという参加者が集まった。ゆっくりと丁寧に教えてもらうことができ、今後はICTの活用にチャレンジしてみたいという声が多く聞かれた。 ・教員がお互いのICTの活用方法について情報共有することで、問題点の解決や授業改善へのヒントなどを得ることができる有意義な協議会となった。また、指導主事から有効な助言や最新の情報を得ることができた。				
学校関係者の意見	<p>・基礎力診断テストで理解度が低かった生徒(D3)の補習では、個別指導を受けた生徒は楽しそうに学習している。中学生のときから学習習慣が身につけていない生徒でも、丁寧に指導すれば、意欲的に学習に取り組んでくれ、よい取組である。</p> <p>・朝学習の取組は素晴らしいと思う。達成感を積み重ねることで、自分から学習に向き合えるようになってほしい。</p> <p>・勉強することがなぜ必要なのか、生徒には知ってほしいと思う。</p> <p>・ICTについては大人も活用しているが、生徒の方が上手に使いこなしている印象を受けている。</p>				
次年度へ向けての課題	<p>・ICTの効果的な活用方法の情報を収集し、勉強会を開催する。</p> <p>・基礎力診断テストの事前課題をもう少し多く生徒に活用させるための工夫を考える。</p> <p>・課題の与え方等を工夫して生徒が家庭学習をするように誘導する授業研究を行う。</p>				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活			
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSは、スマートフォンの普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如による事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供を受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかし、安易にSNSで写真や動画を挙げてしまうことが見受けられ、指導を行うことがある。スマートフォン使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。 ・交通事故件数は、昨年度は7件発生した。登校時に自動車と接触する事故が最も多い。幸い大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からない。また、加害者になることも限らない。命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。 			
達成目標	SNS上の指導件数	交通事故件数		
	・年間報告件数 5件以下	・発生件数 5件以下		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・集会毎にSNSに関する指導、情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・校風安全委員による対策等検討会の実施 ・個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・事故発生時の状況や場所の教室掲示 ・校風安全委員による対策等検討会の実施 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導 		
達 成 度	・報告件数0件(1月末日現在)		・事故件数9件(1月末日現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業式、終業式での注意喚起 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施(2学年) ・ST時での情報提供 ・個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業式、終業式での注意喚起 ・自転車カギかけ運動(5月) ・自転車点検による安全意識の向上(5月) ・交通安全教室の実施(1年生 7月) ・ST時での情報提供 ・校風安全委員会での事故の原因と対策検討、教室での呼びかけ ・個別指導 		
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットパトロール報告件数は0件であった。 ・他校生徒とのSNS関係1件の事案があった。自分のスマートフォンからデータを抜き取られ、拡散した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車対自動車9件となっていて昨年度より事故数は増加しており、目標を達成することはできなかった。通学中の出会い頭の事故が多い。大きな事故には至っていないが継続的な指導を行う必要がある。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSとは上手く付き合っていかなければいけない。利用について家庭でも指導しているが、生徒はどうしたいと思っているのか知る機会があればよい。 ・事故については相手のこともあるため、全て生徒が悪いわけではない。引き続き日頃の指導を続けてほしい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの利用の仕方やマナーについて注意喚起を行う。 ・交通安全については新入生に対してはオリエンテーション、交通安全教室を通してしっかりした知識をつけることや情報提供をして注意喚起を行う。 ・自転車通学生についてはヘルメット着用を推奨する。 ・学期末に注意喚起を行い、学年集会や個別指導など様々な対策を行っていく。 ・PTA、生徒会と必要に応じて連携を取りながら、自分のことだと捉えることができるよう取り組みを行っていきたい。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	よりよい勤労観・職業観を身に付けさせ、主体的に進路を選択し決定できる力を育む	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない現状がある。 ・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約130名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、令和4年度:2人、令和3年度:8人、令和2年度:0人、令和元年度:3人、平成30年度:4人であった。
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.9回以上)	新型コロナウイルス影響が不透明であり、求人縮小の影響を考慮して4人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 ・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。 ・生徒用タブレットを有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業が求める人物や適性などの情報を確実に生徒に伝え、意識の向上を図る。 ・適性検査を実施し、その結果より本人の適性、能力について考えさせ、進路選択に生かす。 ・面接時に本人の長所や考えを確実に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接指導が受けられるように指導計画を立てる。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室(タブレット利用含む)延べ利用回数 　　<就職者> 　　進路指導室 906回(内 タブレット利用717回) 　　<進学者> 　　進路指導室 553回(内 タブレット利用454回) 　　合計 1459回(146%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業に111名就職選考試験を受け、110名合格。1名不合格。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。 ・平日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。 ・生徒一人一人にタブレットが支給されており、情報が検索しやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力診断テスト、クレペリン検査の実施。 ・職員による面接指導。 ・求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適性の把握および学年との情報の共有化。 ・企業への求人依頼。
評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は進路の選択にあたり、タブレット使用により、タイムリーに進路情報を得ている。また必要に応じて進路指導室を訪問し、担当者と相談をしたり、進路情報の提供を受けている。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次選考での不合格者数が1名となり、目標人数4人を下回った。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は2年生の後半ぐらいから進路を意識しているようである。先輩たちの活躍により、工芸高校から優良企業へ就職できる実績がある。入学時から進路について意識をもたせ、工芸高校で頑張れば進路に希望がもてることを指導してほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を設定するために、早期に必要な資料を収集するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスや企業説明会を通して早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取り組み、指導を強化する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動			
重点課題	学校行事および部活動の充実			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事に対する満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施しているが、生徒議会の活動が十分とはいえない。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、各行事の実施方法などを検討することも重要となってくる。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。 ・部活動等への参加は活発で、昨年度末の部加入率(生徒会を含む)は99.7%(兼部を含む延べ人数)でほとんどの生徒が何らかの部に加入している。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部見受けられ、退部者は38名(内12名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。 			
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数(退部者)		
	85%以上	40名以内		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見の集約に努め、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う基本的な感染対策の観点も踏まえての活動、および生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査する。 ・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。 ・退部を考えている生徒に対して適切な指導を行い、各顧問と連携を図りながら、部の継続、生徒の適正に応じた転部を勧め、部活動の活性化と充実に努める。 			
達成度	満足(A)+ほぼ満足(B)で評価 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会 A59.3%+B35.8%=95.1% (昨年度比-0.8%) ・尚美展 A51.9%+B46.0%=97.9% (昨年度比+3.1%) ・球技大会 A54.8%+B39.7%=94.5% (昨年度比+2.7%) 	部活動変更生徒数 1学期→3学期 <ul style="list-style-type: none"> ・37名退部 (37名退部のうち17名が新たな部活動に入部した。) ※昨年度38名退部 (38名退部のうち12名が新たな部活動に入部した。) 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の内容は、生徒会執行部が事前アンケートを全生徒に実施し、その結果をもとに感染対策に留意した内容を精選し、計画を作成した。 ・行事後にアンケートを実施し、その結果を次年度へ反映させるようにした。 			
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の満足度95.1%(昨年度比-0.8%) 昨年は規模縮小ではあったが、今年に入場制限等なしの通常開催を実施した。コロナ禍でできなかった応援合戦を3年ぶりに復活。教員参加型の競技も行ったこともあり、満足度は高かった。 ・尚美展の満足度97.9%(昨年度比+3.1%) 昨年度までコロナ禍で入場制限等があった。今年度は入場制限等なしの通常開催を実施した。特に各学科で企画したものづくり体験型イベントや模擬店が復活し大盛況で、生徒たちの満足度が昨年度よりアップした。 ・球技大会の満足度94.5%(昨年度比+2.7%) 生徒会執行部が事前アンケートを全生徒に実施し、その結果をもとに競技種目を決めて実施した。前年度より満足度がアップした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の部活動加入率が高い。 ・今年度は37名の生徒が退部し、うち17名が新たな部活動に入部した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・尚美展では、生徒の楽しそうな顔を見ることができた。生徒・地域の方・保護者、全ての方が満足していたと感じる。来年度も是非続けていただきたい。その他の行事についても満足度が高く、充実していたように思う。 ・学校の部活動でしか経験できないこともあるため、生徒にはできるだけ部活動に入ってほしい。コロナ禍の制限もなくなったところで、これから好きなことを見つけてほしい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の反省点をまとめ、改善点を次年度に反映させる。 ・職員間の連携を密にし、協力体制を整備する。 ・生徒の意見をできるだけ反映し、各行事でよりわかりやすく生徒の主体的な活動体制を整備する。 ・今後のコロナの状況に対して柔軟に対応できるようにする。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の入部に関しては各部とも協力し、部活動紹介から入部式までの期間に必ず見学することや、十分な説明を受けてから入部の意思を固めるよう指導し、ミスマッチを事前に防ぐ。 ・退部者の確認とその後の学校生活の充実を図るための面接を充実させる。 ・女子運動部の活性化。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化		
重点課題	PTA各委員会とPTA行事の活性化		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA各委員会では、行事等について積極的な議論が行われている。 ・令和4年度より、会長、副会長、監査、各委員会副委員長で毎月執行部会を開催している。 ・PTA各行事への参加者数は現状では少ない。 ・各委員長、副委員長が中心となり委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。 ・令和4年度より、PTA総会を土曜日に開催することで、総会の出席率の増加を図っている。 		
達成目標	PTA行事への参加者数	総会への出席者数	
	前年度より10%増	出席率30% (前年度より10%増)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにPTAページを開設。 ・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。 ・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。 ・各委員から行事参加への働きかけを積極的に行う。 ・各委員会において委員長、副委員長が中心となり、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。 		
達成度	前年度より約20%増 ・コロナ禍が明け、学校行事が元の形に戻り実施されたため、行事参加が増えた。特に尚美展における参加が増えている。	総会出席率 20%	
具体的な取組状況	今年度実施事業 ・さわやか運動(生徒指導委員会) ・進路関係情報ホームページ掲載(進路指導委員会) ・尚美展売店・食堂 ・PTA通信発刊(年3回)(文化・広報委員会)	昨年度より、総会を土曜日に実施。 まだまだ、出席率は低いものになっている。	
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・尚美展における役割が増え、次年度以降も積極的な参加が見込まれる。 ・PTA通信の内容の充実が顕著である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の状況を、評価していくことが必要である。
学校関係者の意見	・働き方改革のため組織改革を行い、PTA活動について見直しをした最初の年だった。今後、PTA総会・行事へ積極的に参加していただけるよう、各委員会の活動内容を検討したい。一年間通して生徒と話す機会はありませんでしたので、そのような活動があってもよいのではないか。また、PTA活動は楽しいものであることを広く伝えていきたい。		
次年度へ向けての課題	・新規事業の検討(各委員会において)		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)